

令和 6 年度 西会津町教育委員会事務事業 点検・評価報告書 (令和 5 年度事業分)

事業名	事業コード	事業種別	事業内容	事業実施期間	事業実施回数	事業実施日	事業実施場所	事業実施担当者	事業実施結果
1	0	0	02/21	2	2	0	2	02/21	1
2	0	1	12/1	0	2	0	0	12/1	2
3	0	2	12/2	1	2	0	1	12/2	3
4	0	0	12/3	2	2	0	2	12/3	4
5	0	2	12/4	2	2	0	2	12/4	5
6	0	2	12/5	2	2	0	2	12/5	6
7	0	2	12/6	2	2	0	2	12/6	7
8	0	2	12/7	2	2	0	2	12/7	8

西会津町教育委員会

1. 令和5年度 教育委員会の活動状況

(1) 組織体制

① 教育委員

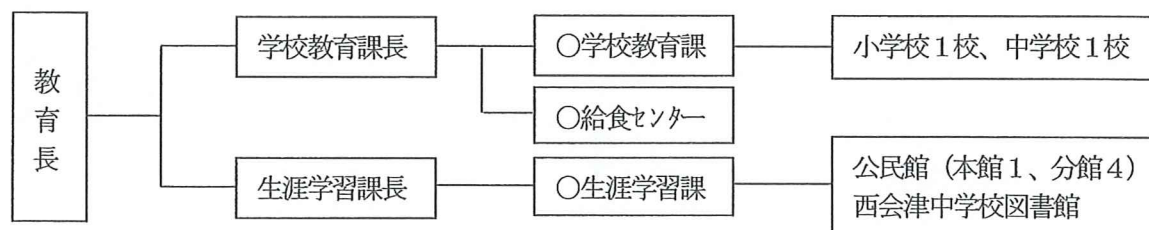
(令和6年3月31日現在)

役 職 名	氏 名	就 任 年 月 日	任 期
教育長職務代理者	高 橋 誠	令和 4 年10月15日	令和 4 年10月15日～ 令和 8 年10月14日
委 員	佐 藤 恵 子	令和 5 年10月 1日	令和 5 年10月 1日～ 令和 6 年10月 4日
委 員	伊 藤 博 子	令和 5 年10月 5日	令和 5 年10月 5日～ 令和 9 年10月 4日
委 員	矢 部 佳 宏	令和 2 年10月 5日	令和 2 年10月 5日～ 令和 6 年10月 4日

② 教育長

役 職 名	氏 名	就 任 年 月 日	任 期
教 育 長	五十嵐 正 彦	令和 5 年 4月 1日	令和 5 年 4月 1日～ 令和 6 年12月26日

③ 事務局組織



(2) 会議の開催状況 (定例会・臨時会)

回数	月 日	議案	協議・承認	報告	回数	月 日	議案	協議・承認	報告
1	4/26	1	0	8	9	12/20	0	0	7
2	5/22	0	0	9	10	1/24	1	0	8
3	6/27	1	0	15	11	2/22	2	0	13
4	7/25	3	0	8	12	3/ 4	0	0	1
5	8/29	2	0	12	13	3/28	5	0	7
6	9/28	1	0	8	合 計		18	0	116
7	10/25	0	0	11					
8	11/28	1	0	10					

(3) 議 案 等

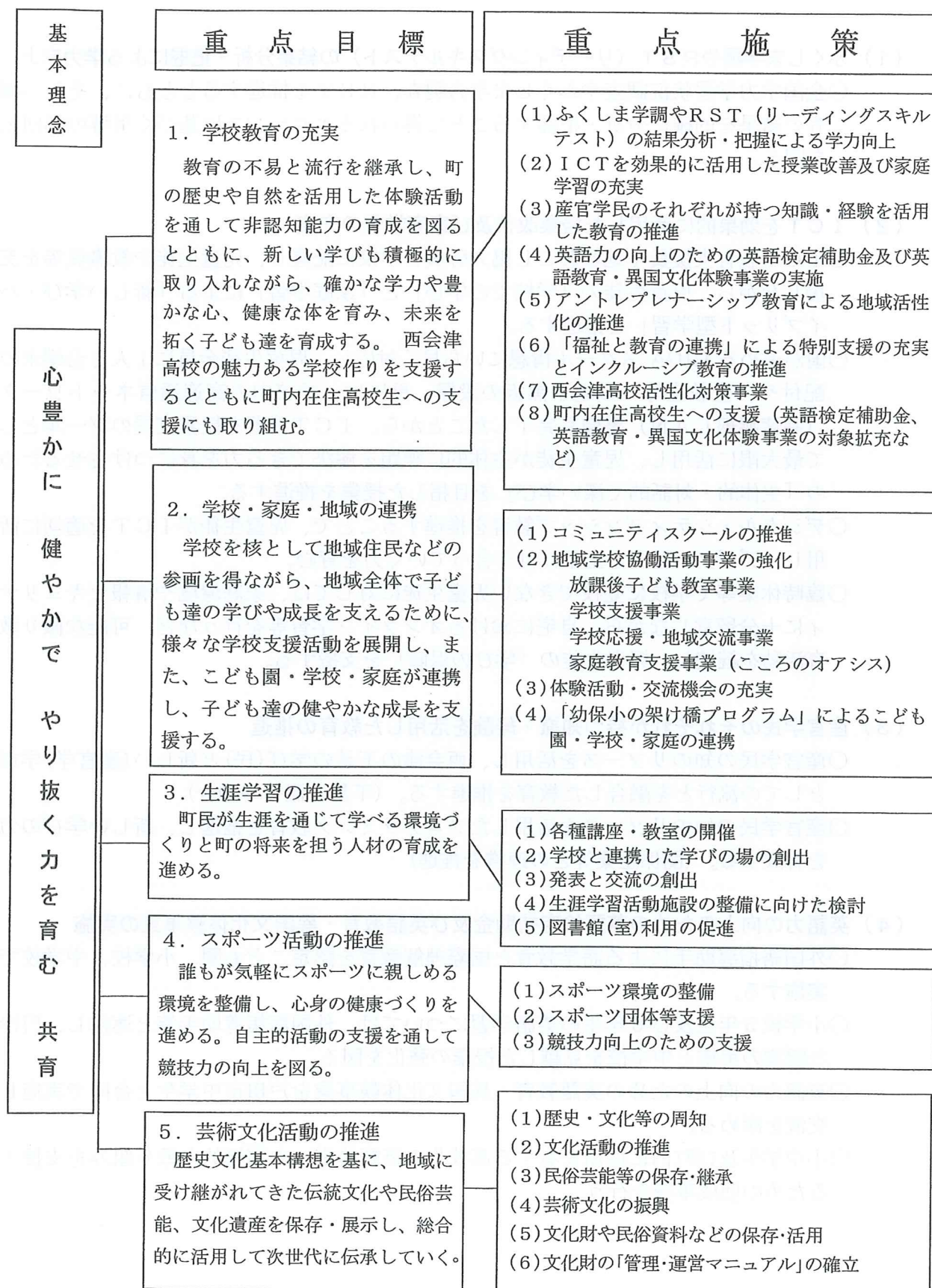
月 日	案 件 名	備 考
4月26日	○ 令和5年度教育目標・重点目標及び重点施策（案）について	
5月22日	○ なし	
6月27日	○ 西会津町教育振興基本計画の策定について	
7月25日	○ 令和6年度使用小学校教科用図書の採択について	
	○ 令和6年度使用中学校教科用図書の採択について	
	○ 令和6年度使用学校教育法附則第9条に規定する教科用図書の採択について	
8月29日	○ 令和5年度西会津町一般会計補正予算（第6次）のうち教育費に係る部分の意見について	
	○ 令和5年度西会津町教育委員会事務事業（令和4年度分）の点検・評価報告書について	
9月28日	○ 西会津町教育委員会表彰規程の一部を改正する訓令について	
10月25日	○ なし	
11月28日	○ 令和5年度西会津町一般会計補正予算（第7次）のうち教育費に係る部分の意見について	
12月20日	○ なし	
1月24日	○ 令和5年度西会津町教育顕彰表彰者の決定について	
2月22日	○ 令和5年度西会津町一般会計補正予算（第10次）のうち教育費に係る部分の意見について	
	○ 令和6年度西会津町一般会計予算のうち教育費に係る部分の意見について	
3月 4日	○ なし	(臨時会)
3月28日	○ 令和6年度西会津町教育委員会 教育目標・重点目標及び重点施策（案）について	
	○ 西会津町教育委員会事務局職員の任免について	
	○ 西会津町公民館分館長の委嘱について	
	○ 西会津町文化財保護審議会委員の委嘱について	
	○ 西会津町スポーツ推進委員の委嘱について	

(4) 教育長等の活動状況

月	行 事 等	備 考
4月	○ 辞令交付式（生涯学習指導員、社会体育指導員、町講師、支援員等、学校教育アドバイザー及び幼児教育・保育アドバイザー） ○ 町職員辞令交付式 ○ 町教職員着任式 ○ 西会津小・中学校入学式 ○ 西会津高等学校入学式 ○ 県町村教育長協議会総会 ○ 県市町村教育委員会教育長会議 ○ 第1回域内市町村教育委員会教育長会議 ○ 全会津市町村教育長連絡協議会定例会	
5月	○ 東北町村教育長連絡協議会 ○ 西会津小運動会 ○ 第1回域内市町村教育委員会訪問 ○ 第1回地域学校協働本部推進委員会 ○ 県市町村教育委員会連絡協議会耶麻支会総会 ○ 在京西会津会	
6月	○ 町議会定例会 ○ 西会津こども研幾塾開塾式 ○ プログラミング教室	
7月	○ 県市町村教育委員会連絡協議会会津ブロック研修会 ○ 第1回会津探採地区協議会 ○ 西会津こども研幾塾 ○ 町総合教育会議	
8月	○ 事務事業外部評価委員会 ○ 英語教育・異国文化体験事業 ○ 西会津こども研幾塾 ○ 町教育委員会主催教職員研修会 ○ 県教育委員会連絡協議会 ○ 令和5年度教育委員・教育長研修会	
9月	○ 町議会定例会 ○ 西会津こども研幾塾	
10月	○ 会津耶麻地方植樹祭 ○ 西会津中光桐祭 ○ 県市町村教育委員会連絡協議会耶麻支会研修会 ○ 第38回西会津の文化と産業祭（西会津ふるさとまつり） ○ 第2回域内市町村教育委員会教育長会議	
11月	○ 公開授業研究会 ○ 第2回域内市町村教育委員会訪問 ○ 第35回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会選手激励会 ○ 西会津こども研幾塾閉塾式 ○ 令和5年度福島県町村教育長協議会 ○ 令和5年度自治功労者表彰式	
12月	○ 第32回子どもの主張大会 ○ 町議会定例会	
1月	○ 給食センター運営委員会 ○ 文化財防火デー合同消防訓練 ○ 武蔵野大学アントレプレナーシップ学部「EMC SUMMIT」	
2月	○ 埼玉女子短期大学専門ゼミ「エアライン」卒業研究発表会 ○ 大宜味村交流事業 ○ 令和5年度町教育顕彰表彰式 ○ 第34回西会津雪国まつり ○ 第6回町長杯西会津かるた大会	
3月	○ 第3回域内市町村教育委員会教育長会議 ○ 町議会定例会 ○ 西会津小・中学校卒業式 ○ 第3回域内市町村教育委員会教育長会議 ○ 町教職員離任式	

令和5年度 西会津町教育委員会 重点目標及び重点施策

I. 教育目標・重点目標及び重点施策の体系



Ⅱ. 重点目標及び重点施策

1 学校教育の充実

SDGs(エスディーズ)の視点に立った教育活動の推進。

(1) ふくしま学調やRST（リーディングスキルテスト）の結果分析・把握による学力向上

○全国学力学習状況調査やふくしま学力調査、RSTを推進するとともに、それら調査の結果を的確に分析・把握することで得られるエビデンスに基づく指導の個別化を図る。

(2) ICTを効果的に活用した授業改善及び家庭学習の充実

○ICT教育支援員や地域おこし協力隊員を学校に配置し、児童生徒や教職員等を支援しながら、児童生徒の「学校での学び」と「家庭学習」による「新しい学び・ハイブリット型学習」を推進する。

○国が進めるGIGAスクール構想にいち早く対応し、児童生徒全員に1人1台端末の配付や、全教室等への電子黒板の設置、更には、学校内の高速通信ネットワーク（高速無線LAN）整備も完了したことから、ICT機器を授業支援のツールとして最大限に活用し、児童生徒が主体的に課題を解決できる力を身につけさせるための「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業を推進する。

○デジタル・シティズンシップ教育を推進することで、児童生徒がICTを適切に活用し、デジタル社会と上手に付き合っていく力を育む。

○臨時休業等で学校に登校できない児童生徒に対しては、家庭環境や情報セキュリティに十分留意しながら、自宅におけるオンライン学習等を行うなど、可能な限り教育活動を継続し、児童生徒の「学びの保障」を支援する。

(3) 産官学民のそれぞれが持つ知識・経験を活用した教育の推進

○産官学民の知のリソースを活用し、西会津の不易の学び(民)と新しい(産官学)学びとしての流行とを融合した教育を推進する。(不易と流行の融合)

○産官学民の知のリソースを活用したプログラミング教育を推進し、新しい学びの力を育成する。(関係企業等との連携を推進)

(4) 英語力の向上のための英語検定補助金及び英語教育・異国文化体験事業の実施

○外国語指導助手による語学教育と国際理解教育を認定こども園、小学校、中学校で実施する。

○小学校5年生及び6年生の英語学習については、外国語指導助手等と連携し、円滑な授業の実施と中学校を見越した授業の強化を図る。

○英語力の向上のための英語教育・異国文化体験事業を戸田市中学生と合同で実施し、交流を深める。

○小中学生及び町内に住所を有する高校生の英語検定への積極的な取り組みを支援するための助成事業を行う。

(5) アントレプレナーシップ教育による地域活性化の推進

- 武蔵野大学との連携により、生徒が社会の一員として生きていく上で必要な「自ら考え行動し、問題を解決していける開拓者精神と自立心」を育てるアントレプレナーシップ教育を特色ある活動として推進する。
- 児童生徒に基礎的・基本的な知識とそれを活用し、問題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を習得させ「生きる力」を育む。

(6) 「福祉と教育の連携」による特別支援の充実とインクルーシブ教育の推進

- 障がいのある児童生徒一人一人の個に応じた指導の充実に努める。
- 認定こども園から小学校に入学する際、発達に障がいが見られる児童生徒の早期発見と早期支援に対応するための連絡会を実施する。
- 特別支援学校との連携により、障がいのある児童生徒が専門的な指導助言を受けられる体制の充実に努める。
- 不登校等の児童生徒やその保護者が、適切な教育相談等を受けることができるよう、スクールカウンセラーや教育相談員の活用、更に「こころのオアシス」を中心に関係機関との相談体制の充実を図り、「教育」と「福祉」の連携に努める。

(7) 西会津高等学校活性化対策事業

- 西会津高校の特色を活かし、生徒の多様な将来の夢が実現できる学校となるため、県や学校、同窓会、PTAと連携しながら、生徒が望む魅力ある学校づくりを目指す西会津高校のコミュニティスクールを支援する。

(8) 町内在住高校生への支援

- 対象者を町内に住所を有する高校生まで拡大した英語検定料補助金交付事業の補助対象者及び英語教育・異国文化体験事業を推進し、町内高校生への支援を強化する。

(9) その他

- 義務教育9年間を通じた教育活動により、児童生徒に社会で自立し、生きる力を身につけさせる。
- 小学校と中学校が、お互いの校種の違いを理解し、教育活動の独立性と連続性を認識しながら、かつ、情報を共有し、児童生徒の成長を支援する。
- 小学校と中学校の児童生徒、教員及び保護者の交流を進め、地域ぐるみで児童生徒を育成する。
- 豊かな情操や規範意識、公共の精神などを育む道徳教育を推進する。
- 豊かな感性や情緒を育み、豊かな言語力を育成するため、朝読書やビブリオバトルの実施、図書館の読書通帳の活用など、積極的に読書活動を奨励する。
- 教員の資質・能力の向上を図るため、教員の授業研究等の校内研修の活性化を図るとともに、町教育委員会独自の研修を実施する。
- 人事評価制度を活かし、教職員の学校経営参画意識の高揚と資質の向上を図る。
- 児童生徒に危機回避能力を育てる安全指導の充実、地域と連携協力した学校内外の安全の確保を図る。

- 災害等に備え、危機管理体制の不断の見直しと、児童生徒の安全確保訓練をこども園、小・中学校が連携し計画的に実施する。
- 日々のスクールバスについては、安全を重視した運行により、絶対無事故の登下校に努める。
- 児童生徒に食の大切さを理解させ、正しい食習慣を身に付けさせるため、学校・家庭・地域の連携による食育を推進するとともに、学校栄養職員等による食に関する指導を支援する。
- 学校給食では、地場産品の農産物の使用を推進し、楽しく美味しい栄養バランス（塩分調整も含む）のとれた給食を提供する。
- 学校施設や給食センターの計画的な施設修繕・改修により、安全・安心な給食の提供をはじめ、児童生徒及び教職員が安全・安心な学校生活が送れる環境づくりを推進する。

数値による目標

目 標 名		現状値 (令和4年)	目標値 (令和7年)	目標設定の説明
自分には良いところがある と感じている割合 (自尊感情・自己肯定感)	小学校	85.2 %	85 %	子どもの自尊心や自律心などを育てる (該当する年度の小学校6年生及び中学校 3年生の全国学力・学習状況調査による)
	中学校	66.7 %	85 %	
家で、自分で計画を立てて 勉強している割合	小学校	66.6 %	85 %	
	中学校	58.3 %	85 %	

2 学校・家庭・地域の連携

(1) コミュニティースクールの推進

- 学校運営協議会（コミュニティースクール）を機能させ、学校運営の状況や教育活動の内容について評価を行い、学校経営の見直し、改善を図る。
- 学校と地域の連携・協力体制を整備し、地域全体で学校を支え、教職員が児童生徒と向き合う時間的・精神的なゆとりを確保できるよう、地域学校協働本部事業の推進を図り、小・中学校のコミュニティースクールを支援・推進していく。

(2) 地域学校協働活動事業の強化

- 放課後や週末等に子どもが安心して活動できる場の確保を図るとともに、次世代を担う小学校児童の健全育成を支援するため、「西小わくわくクラブ」の取り組みを推進する。
- 小中学校の児童生徒を対象に、放課後や長期休業中に無料の学習会を実施し、地域の退職教員や保護者等の協力を得ながら、子どもたちの自主的な学習を支援。普段の授業とは異なる視点から学ぶことで、学習意欲を高めるとともに、地域の方と直接話しながら学習する中で社会性を育てる。
- 全町民を対象に日本漢字能力検定を年3回程度実施し、子どもから大人まで生涯を通じた学びを応援する。
- 教育活動において教員だけでは担いきれない部分に対して、地域住民が支援する取り組みや地域との交流を通して児童生徒の社会性や郷土愛の醸成を図る。

○急激な社会環境の変化により地域と家庭のつながりが希薄になる中、悩みを抱える保護者の孤立化を防ぐため、小学校内に設置した家庭教育相談室「こころのオアシス」において、保護者からの相談に丁寧に応じ、関係機関と緊密に連携しながら相談者の課題解決に向けて断続的に支援する。また、教室に馴染めない児童生徒の居場所として、不登校や登校しぶりの未然防止に努めるほか、講座やイベントの企画開催を通して保護者目線の学習機会の提供や家族間交流を推進する。さらに企業訪問やソーシャルメディアを活用し情報発信を通じて、多忙な保護者への情報提供も実施する。

(3) 体験活動・交流機会の充実

- 地域活動・ボランティア活動を通じたコミュニケーション能力の習得と地域活性化の推進・自然・農業体験の充実を図る。
- こども研幾塾事業により、地域学習を中心とした新しい学びの創出を図る。
- 児童生徒の交流は、オンラインによる交流等、新たな方策も検討し交流機会の創出を図る。(大宜味村・いわき市豊間小・戸田市)
- 地域おこし協力隊と連携し、児童生徒に本町の良さの発見と、新たな学びを創出していく。
- 児童生徒に非認知スキルを育むため、奉仕の精神・社会性や規範意識向上を図るための農業・職場体験並びにボランティア活動などの体験活動を充実させる。
- 西会津国際芸術村との連携を図り、町の資産である自然・歴史・文化等の体験を通して学び、非認知スキルを培っていく。

(4) 「幼保小の架け橋プログラム」による子ども園・学校・家庭の連携

- 義務教育開始前後の5歳児から小学1年生の2年間にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人一人の多様性に配慮した上で、全ての子どもに学びや生活の基盤を育むことを目指す「幼保小の架け橋プログラム」を実施する。

3 生涯学習の推進

(1) 生涯学習活動の推進

- 西会津町教育振興基本計画(令和5年度～令和8年度)に基づき、具体的事業により生涯学習活動を推進する。

(2) 学びの環境の充実

- 誰もが生涯を通じてあらゆる機会にあらゆる場所において、学習することができる活動を支援し、生涯学習関連講座を開設してこれを援助する。町ケーブルテレビやホームページを活用して情報発信や情報提供に努める。
- 「協働によるまちづくり」の理念のもと各種生涯学習団体の自主的活動を支援する。
- 生涯学習発表の場を提供し、町民の交流や学習成果発表を推進する。
- 人が集まるところに出向く「出前講座・教室」を推進し、町民が学ぼうとする意欲の支援と環境を整える。

○西会津中学校町民図書館が中心となり、多様化する図書のニーズに対応するため県立図書館等と連携するとともに、読書通帳等を活用し、子どもから大人まで読書に親しむことのできる環境づくりに努める。小学校低学年や乳幼児のうちから読書に親しむ習慣をつけることができるよう、お話しの会やブックスタートに取り組んでいく。

(3) 青少年健全育成活動の推進

○青少年健全育成町民会議を中心にして広報、啓発を行っていく。子どもの主張大会の開催や街頭活動などの地域活動を推進し、町民総意のもとに青少年の健全な育成に努める。

○歴史があり深い交流を続けているいわき市豊間小と長寿の村大宜味村との児童生徒の交流学习を進める。

数値による目標

目 標 名	現状値 (令和3年)	目標値 (令和7年)	目標設定の理由
出前講座開催数	25回	30回	人が集まるところに出向き、参加者を拡大する
生涯学習発表会等の参加団体数	22団体	22団体	生涯学習団体を支援し、発表会の参加団体を現状維持する
中学校町民図書館貸出冊数	17,525冊	18,500冊	読書活動を推進し、図書の貸出冊数を増やす

4 スポーツ活動の推進

(1) 一人一スポーツの推進とニュースポーツの普及促進

○社会体育指導員などの支援のもと、一人一スポーツを推進し、町民が生涯にわたり様々な形でスポーツに関わりを持てるように努める。

○町民の誰もがスポーツを身近に親しめるよう、ニュースポーツを普及させる。

○各種スポーツ行事や大会、教室を開催し、町民へのスポーツ活動の普及促進に努めるとともに、自主活動の支援に努める。

○小学校高学年及び中学校の児童生徒の個々の体組成を測定し、自分の身体への理解を深めながら怪我をしない身体づくりに資するよう会津大学短期学部と連携して取り組む。

(2) 競技力向上への強化推進

○市町村対抗の軟式野球大会等は参加を積極的に支援し、町民意識の高揚に努める。

○ふくしま駅伝は、小学生のうちからキッズランニングクラブ等で選手を育成し、活躍の姿をとおして町民意識の高揚につながるよう努める。

(3) スポーツ団体の育成と自主的活動の助長

○スポーツ関係団体を支援し、自主的活動による組織強化を図るとともに、指導者や競技者を養成して技術の向上に努める。

○町民の健康づくりのための「西会津スポーツクラブ」や人を育てるための「西会津町スポーツ少年団」等を支援し、日常的なスポーツ活動を推進する。

数値による目標

目 標 名	現状値 (令和3年)	目標値 (令和7年)	目標設定の説明
西会津スポーツクラブ会員数	57人	100人	西会津コミュニティクラブ(スポーツクラブ)の充実により会員数を増やす
施設利用登録スポーツ団体数	10団体	10団体	スポーツ団体を支援し、活動を活発化させる
さゆり公園スポーツ施設年間利用者数	29,509人	40,000人	施設の適切な維持管理と各種スポーツの普及により利用者を増やす

5 芸術文化活動の推進

(1) 芸術の薫り高い文化のまちづくり

- 町民の主体的な芸術文化の創造活動を支援し、成果を発表する機会を設ける。
- 音楽コンサートや芸術鑑賞などに取り組み、芸術文化に触れる機会を設ける。

(2) 文化遺産等の調査及び指定、保存伝承

- 文化財行政のマスタープランとなる「西会津町歴史文化基本構想」を基に推進を図る。
- 伝統的な民俗芸能等の調査及び記録に努め、民俗芸能等の保存と伝承活動を支援する。

(3) 文化財の保存と活用、伝承

- 文化財の積極的な保護と保存、調査及び監視に努め、新たな指定や保存への支援を進める。
- 文化財などの整理分類をしながら適切な管理保存に努め、展示公開できるよう整備を進める。
- 令和3年度に製作した改訂版「西会津町の指定文化財」の有効利用を図る。
- 文化財及び古文書など歴史資料のデジタルアーカイブス化を計画的に進める。

数値による目標

目 標 名	現状値 (令和3年)	目標値 (令和7年)	目標設定の説明
絵画、写真等の展覧会を行った施設数	2施設	10施設	芸術等に触れる機会を確保するため展覧会の開催施設数を維持する

令和5年度分 点検・評価を行う主な事務・事業

番号	重点施策の名称	主要な事務・事業の名称	担当課
1	1－(4) 英語力の向上のための英語検定補助金及び 英語教育・異国文化体験事業の実施	英語教育・異国文化体験事業 英語検定受験料補助金	学校教育課
2	1－(6) 「福祉と教育の連携」による特別支援の充実と インクルーシブ教育の推進	特別支援教育	
3	2－(4) 「幼保小の架け橋プログラム」によるこども 園・学校・家庭の連携	幼保小の架け橋プログラム調査研究事業	
4	3－(1) 各種講座・教室の開催	学習の場の提供と生涯学習推進事業	生涯学習課
5	4－(2) スポーツ団体等支援 4－(3) 競技力向上のための支援	スポーツの普及・スポーツ団体育成と 競技力向上事業	
6	5－(1) 歴史・文化等の周知 5－(5) 文化財や民俗資料などの保存・活用	歴史資料・文化財等の保存・継承事業	

項目	担当者 (氏名・部署)	担当者 (氏名・部署)	備考
点検・評価の対象となる事業・事務	担当課	担当課	点検・評価の対象となる事業・事務

町総合計画	第1節 健康で豊かな人々とともに育むまちづくり	2. 教育環境		教育委員会 重点目標及び重点施策	
		重点目標		1. 学校教育の充実	
		重点施策		1-(4) 英語力の向上のための英語検定補助金及び英語教育・異国文化体験事業の実施	

事業の概要	事業名	英語教育・異国文化体験事業 英語検定受験料補助金	開始年度	R元 R2	実施方法	直接	補助金等	町単
	対象	(英語教育・異国文化体験事業) 町内在住の中学生・高校生 (英語検定受験料補助金) 町内在住の小学生(5・6年生)・中学生・高校生						
	目標	(英語教育・異国文化体験事業) 生きた英語と英国文化の体験的な活動を通して、国際社会に対応するコミュニケーション能力と豊かな人間性を身に付けるとともに、戸田市中生と合同で実施し、同世代間の交流を図る。 (英語検定受験料補助金) 児童生徒の英語力及び学習意欲の向上と受験機会の拡大による主体的な学びを支援する。						
	事業内容	(英語教育・異国文化体験事業) ブリティッシュ・ヒルズ(天栄村)を会場に、ゲームやものづくりなどの4つの英語カルチャーレッスンを通して、英会話を学んだ。また、自由時間に参加できるミニ講座などにも積極的に参加し、戸田市の中学生と交流をしながら、英会話を親しんだ。(1泊2日) (英語検定受験料補助金) 英語検定(日本英語検定協会)を受験した際の検定料の全額を補助する。補助金の申請は年1回を上限とする。 【参考】 準会場における検定料:3級(中学卒業程度)4,700円、2級(高校卒業程度)6,400円						
			単位	3年度	4年度	5年度	6年度	特記事項
	最終予算額(6年度は当初)		千円	2,266	2,438	2,292	2,095	令和3年度は、コロナ禍により「英語教育・異国文化体験事業」を中止した。
	決算額(A)		千円	279	1,417	1,456		
	決算額のうち一般財源		千円	279	663	634		

成果・評価			(英語教育・異国文化体験事業) 令和元年度に事業を開始したが、令和2・3年度はコロナ禍により事業を休止し、令和4年度から事業を再開した。また、2年間の事業休止があったため、休止期間に参加できなかった中学生(現高校生)がいるため、再開した令和4年度から町内在住の中学生に加え高校生も対象にした。令和5年度も引き続き、教育交流提携を締結する戸田市の中学生も参加し、同世代間の多様な交流も図られた。 参加生徒へのアンケートの結果、「とても良い体験だった 88%、良い体験だった 12%」「来年も参加する 35%、おそらく参加する 24%」となり、肯定的な回答が多数であった。 また、交流先の戸田市市長及び戸田市教育委員会からも継続して実施していきたい旨のお話をいただいている。 参加者・・・西会津町20名(中学生19名、高校生1名)、戸田市15名、計35名 (英語検定受験料補助金) 令和2年度に中学生を対象に補助事業を開始した。令和3年度に小学校5・6年生、令和4年度には高校生を対象に加え、拡充を図っている。また令和5年度から受験する中学生に対して、事前の対策学習会を実施した。 【補助金交付件数の推移】 R3:85件(小学生8件、中学生77件) R4:46件(小学生3件、中学生35件、高校生8件) R5:34件(小学生2件、中学生24件、高校生8件)					
			(英語教育・異国文化体験事業) 高校生及び戸田市中生生の参加人数が募集定員にまで達していない。 (英語検定受験料補助金) 中学生の受験者の減少により、補助金交付件数が減少している。					
改善策			(英語教育・異国文化体験事業) 多様な方法により周知を図るとともに、レポート参加でも楽しめるように毎年レッスン内容を変えるようにする。休止期間に参加できなかった中学生(現高校生)への対応は、再開から2年が経過するので、高校生枠は縮小する。 (英語検定受験料補助金) 補助金の活用により、検定料を負担することなく受験できることを引き続き周知し、受験者を増やすとともに、引き続き事前の対策学習会を実施し、受験することへの抵抗をなくす。					
			今後の目標 児童生徒の英語に対する興味・関心を高め、英語力の向上を図る。					

自己評価(点数による評価)

視 点	評 価			備 考
① 妥当性	1 低い	2 高い	③ 不可欠	事業必要度
② 効率性	1 課題がある	② 予定通り	3 予定以上	費用対効果
③ 有効性	1 期待以下	② 期待通り	3 期待以上	目的達成度
④ コメントによる評価 英語教育・異国文化体験事業は概ね良好に事業を展開していると思われる一方で、英語検定受験料補助金は今一つ期待通りの事業効果が得られていない。				
事務事業の方向性		1 廃止	2 改善	③ 維持継続

外部評価委員会の意見(点数による評価)

視 点	評 価			備 考
① 妥当性	1 低い	2 高い	③ 不可欠	事業必要度
② 効率性	1 課題がある	② 予定通り	3 予定以上	費用対効果
③ 有効性	1 期待以下	② 期待通り	3 期待以上	目的達成度
④ コメントによる評価 学校との連携により、英語検定に対する受験の必要性を指導していくこと。児童・生徒の受験機会を増やすよう努力していくことを望む。				

町 総 合 計 画	第1節 健康 やかな人々を ともに育む まちづくり	1. 学校教育の充実	教育委員会 重点目標及び重点施策	
		重点目標	1. 学校教育の充実	
		6. 特別支援の充実	1-(6) 特別支援の充実とインクルーシブ教育の推進	

事 業 の 概 要	事業名	特別支援教育	開始年度	R5	実施方法	直接	補助金等	
	対象	就学において特別な支援を必要とする児童・生徒						
	目標	特別な支援を必要とする児童生徒が、各々に適した学習環境で学べるように就学先について審議する。						
	事業内容	毎年10月に開催している「就学指導審議会」の下部組織として「教育支援委員会」を設置。翌年度の就学にあたり特別な支援を必要とする児童生徒について、委員の中から選ばれた「専門調査員」が、7月から8月にかけて対象の児童生徒について授業見学や担任への聞き取り等の調査をする。調査後、9月上旬に専門調査部会を開き、児童生徒の就学先について専門調査部会内での所見を出し、調査資料に加えて9月下旬の教育支援委員会に提出する。教育支援委員会でも調査結果をもとに児童生徒の適切な就学先について協議し、委員会内での所見を出したうえで、就学指導審議会に資料を提出し最終的な就学先について協議・判断する。 【R5年度実施経過】 5月2日 第1回教育支援委員会(委員顔合わせ、年間計画確認) 7月11日 第1回専門調査部会(調査対象者割り振り) 9月8日 第2回専門調査部会(調査結果による審議) 9月26日 第2回教育支援委員会(専門調査委員会での審議結果をふまえた審議) 11月2日 就学指導審議会(専門調査部会、教育支援委員会の結果をふまえた審議・判断) 3月18日 第3回教育支援委員会(年間の反省) 【R5各委員会構成員】 〈就学指導審議会〉 小・中学校長、医療関係者(診療所医師)、県児童福祉関係者(児童相談所職員)、町児童福祉関係者(子育て支援センター所長、幼児教育・保育アドバイザー)、有識者(主任児童委員、学校教育アドバイザー、小・中特別支援教育コーディネーター) 10名 〈教育支援委員会〉 小・中学校長、小・中特別支援教育コーディネーター、小・中特別支援学級担任、学校教育アドバイザー、幼児教育・保育アドバイザー、子育て支援センター所長 9名 〈専門調査部会〉 小・中学校の特別支援教育コーディネーター、学校教育アドバイザー、幼児教育・保育アドバイザー 4名						
	予 算	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	特記事項	
	最終予算額(6年度は当初)	千円	7	7	7	7	・就学指導審議会委員報酬(1回分)町内有識者分	
	決算額(A)	千円	7	7	7			
	決算額のうち一般財源	千円	7	7	7			

成果・評価	例年、就学指導審議会のみで特別な支援が必要な児童生徒の就学先を判断していたが、審議会前に時間をかけて調査・審議を重ねることで、より本人に合った就学先について考えることができた。また、事前に協議を重ねることで、就学先についてある程度方向性が定まり、審議会の会議時間が短縮され委員の負担を軽減できた。ただ、専門調査員となった先生方には、業務の合間を縫って対象者の見学や聞き取り調査を行ってもらったため、負担になってしまった。
課 題	調査対象者を絞らずに、既に特別支援学級に在籍している児童生徒についても調査を行ったため、調査及び書類作成に時間がかかった。また、調査期間が短く夏休み明けに学校見学や担任への聞き取りを行ったため、スケジュールに余裕が無く調査員や学校側の負担になってしまった。
改 善 策	R6年度からは調査対象者を新規や措置替えの可能性がある児童生徒に絞って重点的に調査・協議する。既に特別支援学級に在籍している児童生徒については、本人・保護者が学校との面談等により次年度も継続を見込んでいる場合は、継続する旨を秋の審議会で諮る。
今後の目標	必要に応じて県の支援事業を活用し、専門家のアドバイスをもらうことも検討する。

自己評価(点数による評価)

視 点	評 価			備 考
① 妥 当 性	1 低い	2 高い	(3) 不可欠	事業必要度
② 効 率 性	(1) 課題がある	2 予定通り	3 予定以上	費用対効果
③ 有 効 性	1 期待以下	(2) 期待通り	3 期待以上	目的達成度
④ コメントによる評価				
段階を踏んだ協議による就学先決定の妥当性向上と効率化のため、次年度も継続していきたい。				
事務事業の方向性	1 廃 止	2 改 善	(3) 維持継続	

外部評価委員会の意見(点数による評価)

視 点	評 価			備 考
① 妥 当 性	1 低い	2 高い	(3) 不可欠	事業必要度
② 効 率 性	1 課題がある	(2) 予定通り	3 予定以上	費用対効果
③ 有 効 性	1 期待以下	(2) 期待通り	3 期待以上	目的達成度
④ コメントによる評価 特別な支援を必要とする児童・生徒への個別の指導計画を持ちながら一層の充実を図っていくこと。メディアの使用など、家庭との連携を深めていくことを望む。				

町総合計画	第1節 健康やかな人々とともに育ちまちづくり	2. 教育環境	教育委員会 重点目標及び重点施策	
		2. 学校・家庭・地域の連携	重点目標	2. 学校・家庭・地域の連携
			重点施策	2-(4) 「幼保小の架け橋プログラム」によるこども園・学校・家庭の連携

事業の概要	事業名	幼保小の架け橋プログラム調査研究事業		開始年度	R4	実施方法	直接	補助金等	国委託
	対象	認定こども園の園児及び保育士、小中学校の児童生徒及び教員、保護者							
	目標	認定こども園から小学校への円滑な接続を図るためのカリキュラムの作成・実践をする。							
	事業内容	令和4年度に文部科学省のモデル地区に採択(3年間)され、5年度も引き続き認定こども園から小学校への円滑な接続を図るため、町特産品であるミネラル野菜づくりを軸としたカリキュラムの作成・実践に取り組んでいる。 〈令和5年度の取組〉 5月30日 第4回カリキュラム開発会議 8月9日 架け橋期カリキュラム部会 10月12日 保育士・教員合同研修会 第5回カリキュラム開発会議 2月20日 第6回カリキュラム開発会議 左記の会議等を経て、5歳児から小学1年生の架け橋期のアプローチ・スタートカリキュラムを策定した。また、『ミネラル野菜づくりと「10の姿」との関連』を作成した。 ※「10の姿」: 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿							
	予 算	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	特記事項		
	最終予算額(6年度は当初)	千円	-	869	728	896			
	決算額(A)	千円	-	571	412				
	決算額のうち一般財源	千円	-	145	0				

成果・評価	こども園と小学校に架け橋コーナーを設置したことにより、園児や児童は展示物に興味や関心を持つようになったり、畑や自然と触れ合う野外活動では、今までより深まりのある発言が見られるようになった。 令和4年度にカリキュラム概要版、令和5年度にアプローチ・スタートカリキュラムを作成して、0歳から15歳までの全体的な取組を整理・実践することができた。 保育士・教員合同研修会では、カリキュラムの理解を深め同じ方向性のもとに教育活動ができるようになった。 相互教育や授業参観を実践することで、遊びを通して学ぶ教育と幼児教育を活かす教育活動についてお互いに理解するなど、意識の変化が見られるようになった。
課 題	こども園と小学校の情報共有のための打合せ等の時間の確保。 地域や家庭等に対する広報活動。
改 善 策	打合せ等の時間の確保については、教育委員会の職員(学校教育アドバイザー)がこども園と小学校の調整役を担うとともに、主導により打合せを行う。 広報活動については、令和6年度にリーフレットを作成し全戸配布を検討しているが、リーフレット作成までの活動については、ホームページのほか、ケーブルテレビや町広報紙を活用する。
今後の目標	架け橋期以後の小学2年生から中学3年生までのミネラル野菜と関わりながら成長する取組を具現化する。 委託事業後の令和7年度以降も継続して事業が実施できる体制を構築する。

自己評価(点数による評価)

視 点	評 価			備 考
① 妥 当 性	1 低い	2 高い	③ 不可欠	事業必要度
② 効 率 性	1 課題がある	② 予定通り	3 予定以上	費用対効果
③ 有 効 性	1 期待以下	② 期待通り	3 期待以上	目的達成度
④ コメントによる評価 本事業は国委託事業でもあり、大変良好に事業を展開している。				
事務事業の方向性		1 廃 止	2 改 善	③ 維持継続

外部評価委員会の意見(点数による評価)

視 点	評 価			備 考
① 妥 当 性	1 低い	2 高い	③ 不可欠	事業必要度
② 効 率 性	1 課題がある	② 予定通り	3 予定以上	費用対効果
③ 有 効 性	1 期待以下	② 期待通り	3 期待以上	目的達成度
④ コメントによる評価 地域の人々との連携を図り、児童生徒の五感を鍛える活動を実施してほしい。活動の内容をCATVを通じて広く周知を行ってほしい。				

町 総合 計画	第1節 健康 やかな人 をともに 育む まちづくり	3. 生涯学習	教育委員会 重点目標及び重点施策	
		1. 各種講座・教室の開催	重点目標	3. 生涯学習の推進
			重点施策	3-(1) 各種講座・教室の開催

事業 の 概 要	事業名	学習の場の提供と生涯学習推進事業		開始年度		実施方法	直接	補助金等	県
	対象	町民							
	目標	発表の場や生涯学習情報の提供を通じ、町民一人ひとりの学習意欲に応え、学んだ成果が地域で適切に評価され活かされる社会を目指す。併せて人材の育成や地域の振興につながることを目標とする。							
	事業内容	○学習機会と学習情報の提供(各種講座、教室の開催) 家庭教育、青少年教育、成人教育、高齢者教育、芸術・文化の各種講座・各教室を、これまでの実績や町民の要望を踏まえながら開催した。また、自治区や地域の要望にあわせ出前講座により学習の機会を提供した。							
	予 算	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	特記事項		
	最終予算額(6年度は当初)	千円	68,478 (4,922)	61,828 (3,159)	71,368 (14,947)	64,300 (7,560)	()内の金額は、人件費を除く事業費		
	決算額(A)	千円	66,615 (4,105)	60,713 (2,312)	65,693 (11,516)				
	決算額のうち一般財源	千円	66,415 (3,904)	60,497 (2,096)	63,268 (9,091)				

成果・評価	・各種講座によっては、受講生の増減はあるものの、内容はおおむね好評である。 ・生涯学習発表会は、参加団体が実行委員会を組織し野沢体育館で実施することができた。 ・小学6年生児童を対象とした沖縄交流を4年ぶりに開催した。 ・新たに大人研幾塾、町民音楽鑑賞会、お金の知識UP講座を開催した。 ・団体活動の衰退により「野草展」を廃止した。 ・他課事業との重複を避けるため iPad講座を中止した。 ・出ヶ原和紙づくり講座は予定では最終年度であったが、自主団体化に向けR6年度も実施することとなった。
課 題	・講座の参加者は固定化しており、継続性を考えると新規受講者の拡大が必要である。 ・参加者の固定化と共に減少化も進んできた。実施にあたっては最低人数制限を設けたりするなど、年度中の事業中止も含めた展開の検討が必要である。 ・感染症対策を行いながらもコロナ5類移行に伴い急激に実施事業が増加した。待ちわびた参加者がいる一方で活動できなくなった町民も増えるなど、人口減少が直接響いている。また、スタッフ減による補充がなかったため、主催者負担も大きかった。 ・若者の参加を増やす取り組みは必要であるが、継続して参加できるような仕掛けづくりが課題である。
改 善 策	・出前講座を推進・活用して講座等を積極的に周知する。 ・社会教育団体の活動を町民に広く周知する。 ・講座に参加する若者との会話を多く持ち参加しやすくする。 ・他課事業との調整を図りながら、合同開催や廃止なども含めて事業を計画する。 ・生涯学習審議会での意見等も踏まえ進めていく。
今後の目標	・発表の機会を通し、学ぶことのすばらしさを町民に周知して、魅力ある講座を構築する。 ・受講生が将来的に講座の講師になるよう、人材の育成にも力を入れていく。 ・新しい社会教育団体ができるよう、支援する。 ・若者が参加しやすい講座等に取り組む。

自己評価(点数による評価)

視 点	評 価			備 考
① 妥 当 性	1 低い	(2) 高い	3 不可欠	事業必要度
② 効 率 性	(1) 課題がある	2 予定通り	3 予定以上	費用対効果
③ 有 効 性	1 期待以下	(2) 期待通り	3 期待以上	目的達成度
④ コメントによる評価				
感染症対策期間を経た中で、現状に合わせて不易流行に沿った大きな見直しが必要である。				
事務事業の方向性	1 廃 止	2 改 善	(3) 維持継続	

外部評価委員会の意見(点数による評価)

視 点	評 価			備 考
① 妥 当 性	1 低い	2 高い	(3) 不可欠	事業必要度
② 効 率 性	1 課題がある	(2) 予定通り	3 予定以上	費用対効果
③ 有 効 性	1 期待以下	(2) 期待通り	3 期待以上	目的達成度
④ コメントによる評価 公民館事業の流れを明確化して、講座から自主団体化していきその後の担当課としての方針を明確にしてほしい。				

西会津町教育委員会

町 総 合 計 画	第1節 健康 やかな人々を ともに育む まちづくり	4. スポーツ	教育委員会 重点目標及び重点施策	
		2. スポーツ団体等支援	重点目標	4. スポーツ活動の推進
		3. 競技力向上のための支援	重点施策	4-(2) スポーツ団体等支援 4-(3) 競技力向上のための支援

事 業 の 概 要	事業名	スポーツの普及・スポーツ団体育成と競技力向上事業		開始年度		実施方法	直接	補助金等	町単
	対象	町民							
	目標	健康づくりのため町民が日常的にスポーツに触れる時間を増やしていくこと。また、競技力の向上を図り、市町村対抗競技などでの成績向上を目指す。							
	事業内容	①スポーツ行事の開催～各地区体育行事、町民グラウンドゴルフ大会、町民カローリング大会等 ②気軽に行えるニュースポーツの普及 ③体育協会の育成 ④総合型地域スポーツクラブの育成、スポーツ少年団の支援 ⑤ふくしま駅伝大会・市町村対抗野球大会・ソフトボール大会への支援							
	予 算	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	特記事項		
	最終予算額(6年度は当初)	千円	12,188 (8,130)	13,327 (9,448)	16,616 (8,573)	17,200 (9,084)	()内の金額は、人件費を除く事業費		
	決算額(A)	千円	10,983 (6,968)	11,581 (7,523)	15,375 (7,453)				
	決算額のうち一般財源	千円	10,983 (6,968)	11,581 (7,523)	15,375 (7,453)				

成果・評価	・コロナ5類移行に伴い対策を取りながら開催することができ、町民の健康増進と親睦を図ることができた。スポーツ少年団については、学校での感染状況を注視しながら活動ができた。 ・「ふくしま駅伝」は、選手が集まらず大会直前まで郡山スタートのオープン参加を想定していたが、何とかエントリーすることができ出場できた。51チーム中42位であった。(H28、R元)に敢闘賞を受賞。H30→38/53、R元→30/53、R2→29/50、R3→32/50、R4→37/52、R5→42/51) ・軟式野球はR4に初めてベスト8へ進出したが、R5は2回戦で敗退した。ソフトボールは昨年に引き続きシーソーゲームを展開したが、時間切れで最終回を残して終了し敗退した。 ・各地区でのスポーツ行事もコロナ前に近づけて開催できた。 ・継続してこども園や小学校低学年への運動教室を開催できた。
課 題	・スポーツによる町民の健康増進には、一人一スポーツのさらなる推進(各種講座での取組みなど)が必要である。 ・肥満児の増加が課題でもあり、小さいうちからのスポーツに親しむ機会が必要である。 ・市町村対抗競技においては、成績向上対策を第一の目標にしつつも少子高齢化・人口減少問題からくる競技人口の減少で選手を集めるのが困難な状況になっている。 ・総合型地域スポーツクラブは、安定した組織運営ができるよう引き続き団体と連携するとともに運営等の課題の洗い出しとその対策が必要である。 ・感染症拡大もあり、地区行事の出場チーム数が軒並み減少していることや、猛暑(暑さ)により実施できないケースもあり、対策と共に全体の見直しも課題である。 ・参加者が固定化してきている。
改 善 策	・総合型地域スポーツクラブの組織運営の基盤づくりに向けた支援を行う。 ・市町村対抗競技は、戦績を重視しつつ次世代の育成を図る。 ・肥満児対策として小学生対象の公民館スポーツ講座やスポーツ少年団の加入促進を図る。 ・夏場の開催時間の変更や冷房設備を備えた屋内競技等への移行など、関係団体で協議する。
今後の目標	・一人一スポーツの普及を図るため、総合型地域スポーツクラブの自立と強化に向けた支援を行うとともに、ニュースポーツの普及を促進する。 ・市町村対抗競技については、好成績を残せるよう支援するとともに、将来に渡り継続的に参加する。 ・各種機関の協力を得ながら低年齢層からスポーツに親しめる環境づくりをする。

自己評価(点数による評価)

視 点	評 価			備 考
① 妥 当 性	1 低い	(2) 高い	3 不可欠	事業必要度
② 効 率 性	(1) 課題がある	2 予定通り	3 予定以上	費用対効果
③ 有 効 性	1 期待以下	(2) 期待通り	3 期待以上	目的達成度
④ コメントによる評価				
関係団体と調整を図り、現状に合った支援の形にしていかなければならない。				
事務事業の方向性	1 廃 止	2 改 善	(3) 維持継続	

外部評価委員会の意見(点数による評価)

視 点	評 価			備 考
① 妥 当 性	1 低い	2 高い	(3) 不可欠	事業必要度
② 効 率 性	1 課題がある	(2) 予定通り	3 予定以上	費用対効果
③ 有 効 性	1 期待以下	(2) 期待通り	3 期待以上	目的達成度
④ コメントによる評価 競技結果だけでなく、スポーツは楽しむ視点もある。ウォーキングやトレッキングなども広い視点で考えていってはどうか。				

西会津町教育委員会

町 総 合 計 画	第1節 健康 やかな人 をとも に育む まちづくり	5. 歴史・文化・芸術	教育委員会 重点目標及び重点施策	
			重点目標	5. 芸術文化活動の推進
		1. 歴史・文化等の周知	重点施策	5—(1)歴史・文化等の周知
		5. 文化財や民俗資料などの保存・活用		5—(5)文化財や民俗資料などの保存・活用

事業 の 概 要	事業名	歴史資料・文化財等の保存・継承事業		開始年度		実施方法	直接	補助金等	町単
	対象	町民							
	目標	地域に受け継がれてきた歴史遺産・伝統文化・民俗芸能を調査・保存して次世代に継承していくとともに歴史文化基本構想に基づいて展示・活用していく							
	事業内容	・文化財の積極的な調査と保存・監視に努め、新たな指定や保存への支援を進める ・歴史文化基本構想に基づき、歴史文化に関する啓発活動と地域づくりを進める。 ・埋蔵文化財や民俗資料などの整理分類をしながら適切な管理保存に努め、展示公開できる体制整備を進める。							
	予 算	単位	3年度	4年度	5年度	6年度	特記事項		
	最終予算額(6年度は当初)	千円	3,457	2,522	2,784	6,991			
	決算額(A)	千円	2,358	1,690	971				
	決算額のうち一般財源	千円	2,358	1,690	971				

成果・評価	・町制施行70周年記念事業として町の宝を広く知ってもらい、地域活性化に活用してもらうため、本町を学ぶことができる冊子『にしあいづ学』を作成し、令和6年度発刊予定。令和5年度については、原稿執筆を中心に行った。 ・町史編さんの際に収集した古文書のコピーについては令和4年度よりデジタル化の作業を行っている。 ・公民館講座や町の広報紙への「にしあいづ物語100選」の連載を行い、町の歴史文化に関する啓発活動を行った。 ・国重文円満寺観音堂の自動火災報知機の不具合が発覚、地元管理団体と調整し、国の補助事業により令和6年度に修繕することとなった。
課 題	・歴史文化基本構想の具現化 ・将来を見据えた埋蔵文化財や民俗資料など各種資料の整理と保存方法、展示場所の検討を進める。
改 善 策	・現在、道の駅にしあいづや公共施設で埋蔵文化財などのスポット展示を行っているが、西会津中学校での展示を拡充するほか、今後はインターネットミュージアム等デジタル技術の導入や新たな展示方法に関する検討を行う。
今後の目標	・定期的な文化財の調査・確認を行い、現況を把握するとともに、新たな文化財指定や保護・継承方法の支援を行う。 ・『にしあいづ学』を活用した町の歴史文化に関する講座・啓発活動などを行う。

自己評価(点数による評価)

視 点	評 価			備 考
① 妥 当 性	1 低い	2 高い	③ 不可欠	事業必要度
② 効 率 性	1 課題がある	② 予定通り	3 予定以上	費用対効果
③ 有 効 性	1 期待以下	② 期待通り	3 期待以上	目的達成度
④ コメントによる評価				
町の財産でもある歴史や文化財などの調査・保存・啓発は必要である				
事務事業の方向性	1 廃 止	2 改 善	③ 維持継続	

外部評価委員会の意見(点数による評価)

視 点	評 価			備 考
① 妥 当 性	1 低い	2 高い	③ 不可欠	事業必要度
② 効 率 性	1 課題がある	② 予定通り	3 予定以上	費用対効果
③ 有 効 性	1 期待以下	② 期待通り	3 期待以上	目的達成度
④ コメントによる評価				
保存されている文化財をデジタル化の手法を取り入れて公開するとともに、一般向けの歴史講座を開設してほしい。				

令和6年度 西会津町教育委員会事務事業（令和5年度分）の点検・評価 総括表

番号	事務・事業名	自己評価			事業の方向性	外部評価委員評価			備考
		妥当性	効率性	有効性		妥当性	効率性	有効性	
1	英語教育・異国文化体験事業／英語検定受験料補助金	3	2	2	維持継続	3	2	2	
2	特別支援教育	3	1	2	維持継続	3	2	2	
3	幼保小の架け橋プログラム調査研究事業	3	2	2	維持継続	3	2	2	
4	学習の場の提供と生涯学習推進事業	2	1	2	維持継続	3	2	2	
5	スポーツの普及・スポーツ団体育成と競技力向上事業	2	1	2	維持継続	3	2	2	
6	歴史資料・文化財等の保存・継承事業	3	2	2	維持継続	3	2	2	

視点 ① 妥当性 (事業の妥当性) 1 (低い) 2 (高い) 3 (不可欠)
 ② 効率性 (費用対効果) 1 (課題がある) 2 (予定どおり) 3 (予定以上)
 ③ 有効性 (目的達成度) 1 (期待以下) 2 (期待どおり) 3 (期待以上)

外 部 評 価 委 員 名 簿

氏 名	自治区名	備 考
長 澤 隆	芝 草	(委員長)
津 川 由 紀	西 原	
嶋 田 純 子	下 野 尻	
伊 藤 徳 伸	呼 賀	
矢 部 幸 彦	宮 野	